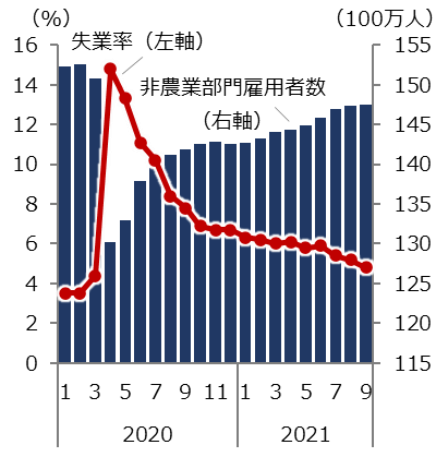
米国

雇用統計（2021年9月）

低調な結果も労働需要は強く、テーパリング決定への影響は小さい

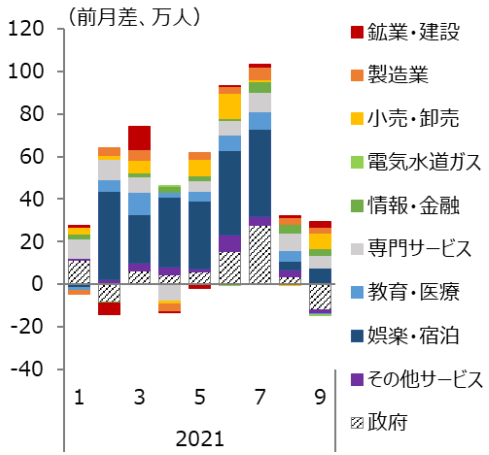
政策・経済センター
田中嵩大
03-6858-2717

1 非農業部門雇用者と失業率



出所：米国労働省より三菱総合研究所作成

2 産業別雇用者（前月差）

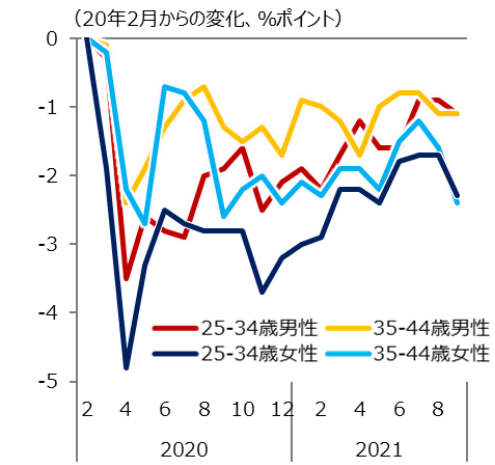


出所：米国労働省より三菱総合研究所作成

3 時間当たり賃金・週平均労働時間

出所：米国労働省より三菱総合研究所作成

4 性年代別の労働参加率



出所：米国労働省より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 9月の非農業部門雇用者数は前月差+19.4万人と、今年最小の伸びだった（図表1）。一方、8月分は同＋23.5万人から＋36.6万人へ修正された。
- 失業率（失業者数/労働力人口）は、4.8%と前月（5.2%）から大きく低下したが、非労働力人口が前月差＋33.4万人と4カ月ぶりに増加し、人々が職探しを諦め、労働市場から退出したことが一因である。
- 産業別では、娯楽・宿泊が前月に続き低調だったほか、学校職員など政府部門での雇用減少が全体を押し下げた（図表2）。
- 9月の時間当たり賃金は、前月比+0.6%と引き続き上昇したほか、週平均労働時間も同＋0.6%増加した（図表3）。

基調判断と今後の流れ

- 米労働市場の回復は足踏みしている。9月上旬に失業給付上乗せが終了したことから、労働市場への復帰加速が期待されたが、小幅な回復にとどまった。
- デルタ株によって新規感染者が高止まりしており、復職意欲が阻害されている。特に子供の面倒を見る必要があったり、感染リスクの高い接客業に従事している人が多い、25-44歳の女性で労働参加率が大きく低下している（図表4）。
- 9月中旬以降、新規感染者数は減少傾向にあるものの、高い水準にあるうちは、今後も復職阻害要因となろう。
- 一方で、労働需要は引き続き強い。逆の動きをすることの多い賃金と労働時間がともに前月比で大きく増加しており、企業は人手不足の対応に苦心している。
- 今回の雇用統計は低調な結果にとどまったものの、雇用回復の遅れが主に供給サイドに起因するものであり、テーパリング延期による雇用回復促進効果は薄いこと、9月のFOMC後の記者会見で「非常に強い雇用統計の結果は必要ない」との発言があったことから、今回の雇用統計の結果が、11月のFOMCでのテーパリング開始決定に与える影響は小さいと考える。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.